

ただ、ここにいていい。そんな場所。

リノハナ
(LINOHANA)

子どもと大人、
みんなで育つ場所を目指して



リノハナは、「子どもの不登校」という共通の経験を持つ母親たちが集まり、同じ悩みで苦しむ人の支えになりたいという思いから、今年の1月に歩み始めました。団体名のリノハナは、ハワイ語「LINO（輝く）」と「OHANA（心でつながる仲間・家族）」を組み合わせた造語で、子どもも大人も、一人一人のペースや感受性を尊重し、自分らしい花を咲かせていける場所でありたいという願いが込められています。楽校うらしりを拠点に、月に1回程度、悩みを語り合う「はなすCAFÉ」を開催するほか、さまざまなマルシェでの出会いを通じて、心とカラダの健康、そしてその先の夢や目標を叶えるきっかけとなる「みんなの居場所づくり」に励んでいます。

代表の根津 由利香さんは「人に言いづらい悩みでも、勇気を出して打ち明け、みんなで語り合える場所でありたい」と話します。「不登校は、子ども自身の悩みにフォーカスしがちですが、実は保護者も誰にも悩みを相談できず、自責の念を抱えながら疲れ切っているケースもあります。だからまずは保護者や周りの大人たちが対話を通じて元気になり、夢や目標を持てれば、子どもにも明るい未来が訪れると信じています」と語ってくれました。
